

令和5年度 学校評価に係るアンケート結果 (下半期)

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)				評定平均	概要・課題	◆改善策						
							4	3	2	1									
学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	確かな学力の定着と向上	1	保護者	お子さんは、学習の基礎・基本が身に付き、考える力が高まっている。	A	82%	23%	59%	17%	1%	3.0	◆教師は「授業改善のための10のチェックリスト」を定期的に活用し授業の振り返りを行うことで授業改善に生かす。児童には「えひめの学びの振り返り10のチェックリスト」をラミネートしたものを配付し、いつでも活用することができるようにする。また、EILSを活用して「えひめの学びの振り返り10のチェックリスト」を実施し、その結果を考察することで、「分かる」「考える」「のびる」授業となるよう、更なる日々の授業改善を行う。 ◆学び合いの視点や目的を明確にした「あいあいタイム」となるよう、「あいあいタイム」カードの活用や板書を工夫した取組を継続して行い、主体性や思考力を伸ばしていく。							
			教職員	授業では、めあての提示や振り返りを行い、一人一人によく分かる学習指導を行っている。			100%	53%	47%	0%	0%		3.5						
			児童	あなたは、授業の内容がよく分かりますか。			97%	59%	38%	3%	0%		3.6						
		2	保護者		A	95%	53%	42%	5%	0%	3.5								
			教職員	授業では、対話や学び合いを日常化し、主体性や自ら考える力を高めようとしている。															
			児童	あなたは、進んで互いの考えを伝え合ったり聴き合ったりして、友達と学び合いながら学習に取り組んでいますか。															
学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等効果的にICTを活用している。	3	保護者	学校は、タブレットなどのICT機器を積極的に活用し、よく分かる授業を行っている。	A	95%	34%	61%	5%	0%	3.3	◆引き続き、本校としてのアナログとデジタルのベストミックスを目指し研修を重ねるとともに、朝学習や授業で週2・3回はタブレットを効果的に活用した授業を行っている。								
		教職員	授業等では、タブレット等のICT機器を効果的に活用し、リテラシーと学力の向上を図っている。									100%	38%	62%	0%	0%	3.4		
		児童	あなたは、タブレットを使うことで、学習がよく分かり楽しくなりましたか。															92%	66%
学校は児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	豊かな学力の育成	4	保護者	お子さんは、自分から進んで家庭学習や読書に取り組んでいる。	B	56%	16%	40%	35%	9%	2.6	◆授業においては、適切な評価問題を行ったり、一言日記を書かせたりして、定着状況を確認し指導に生かす。 ◆自主学習への取り組み方の充実を図る。(めあてと振り返りの記入、自主学習カードの利用) ◆みきゃん通帳を活用し、読書活動の啓発を行う。 ◆図書委員会や図書館支援員と連携し、読書週間に合わせた行事を行う。(多読賞児童の紹介、読書クイズや読み聞かせ、親子読書の薦め等) ◆引き続き「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の取組方法について保護者に知らせる。							
			教職員	学校は、学力調査や評価テスト等の結果に基づき、個人や学級の課題を把握し、指導の改善を図っている。			100%	35%	65%	0%	0%		3.4						
			児童	あなたは、自分の課題を改善しようと、進んで家庭学習や読書に取り組んでいますか。										85%	46%	39%	12%	3%	3.3
		5	保護者	お子さんは、自分の体力に関心をもち、学校や家庭で、進んで体を動かし、体力を高めようとしている。	B	70%	30%	40%	27%	3%	3.0		◆縄跳び検定やITスタジアムに1学期から計画的に取り組み、体力の向上を目指す。 ◆新体力テストに自己のめあてをもって臨ませる。 ◆体育委員会と連携し、1日1回の外遊びを推奨する。また、雨天時に輪番制で体育館の開放を行う。 ◆ホームページ・各種便りで、学校の取組を積極的に知らせる。						
			教職員	学校は、新体力テスト等の結果を踏まえ、体育科や縦割り班活動などで、体力及び身体機能の向上を図っている。										100%	17%	83%	0%	0%	3.2
			児童	あなたは、自分の体力に関心をもち、学校や家庭で、進んで体を動かして体力を高めようとしていますか。															
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	豊かな心の育成	6	保護者	学校は、いじめ・不登校等、保護者の相談に真摯に対応し、問題の解決に努力している。	A	91%	39%	53%	7%	1%	3.3	◆来年度も毎月「くぼたっこのアンケート」を行う。気になる回答をした児童には、必ず個別の声掛けを行うことで、児童の困り感をつかみ早期対応していく。また、学期に1回は学級的全児童との相談タイムを行う。 ◆自分から相談できにくい児童には、普段から教師が積極的に声掛けを行い、相談しやすい雰囲気づくりに努める。							
			教職員	学校は、いじめや差別を許さない意識や、正しいと思うことを勇気を出して行う児童を育てている。										100%	75%	25%	0%	0%	3.8
			児童	あなたは、学校や学級で安心して楽しく過ごさせていますか。															
		7	保護者		A	97%	67%	30%	3%	0%	3.6								
			教職員																
			児童	あなたはいじめや差別を許さない気持ちを強くもち、正しいことを行っていますか。															
学校は「学校の決まり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っている。	8	保護者	お子さんは、安心して学校に通い、楽しく学校生活が送れている。	A	93%	61%	32%	7%	0%	3.5	◆来年度も教職員、児童、保護者の三者で校則検討委員会を開き、学校の決まりについて、児童が主体的に見直した内容を基に、よりよい「学校の決まり」になるよう改善していく。 ◆児童に学校生活における課題に着目させ、毎月の生活目標を考えさせることで、自分たちが決めた目標を守っていかうとする意欲を高め、自己指導力を育成していく。								
		教職員	学校は、児童と共に決まりや約束などの見直しを行い、自らよりよい学校をつくっていかうとする意識や態度を育てている。									100%	80%	20%	0%	0%	3.8		
		児童	あなたは、学校や学級の決まりや約束を大切に、よりよい学校にしたいと頑張っていますか。															95%	67%
学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	9	保護者	お子さんは、自分の夢や目標をもち、それに向かって希望をもって生活している。	B	73%	21%	52%	24%	3%	2.9		◆学年に応じたキャリア教育の視点に立った実践を続ける。 ◆学年の授業実践やお手伝い、挨拶、係・当番活動などもキャリア教育の一環であることなどをホームページや各種便りで発信し、保護者の方への啓発を行う。 ◆キャリアパスポートを持ち帰り、児童の夢や目標を知っていただく機会を学期毎にもつ。							
		教職員	学校は、将来の夢や生き方について希望をもって考える児童を育てている。										100%	40%	60%	0%	0%	3.4	
		児童	あなたは、夢や目標をもち、それに向かって努力していますか。																95%
学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	10	保護者	学校は、交通安全やけが防止等の適切な指導を行い、事故防止と安全な環境づくりに努めている。	A	97%	55%	42%	3%	0%	3.5	◆町別児童会や学校だよりでヘルメット着用を児童・保護者に呼び掛け、更に意識が高まるよう、継続して指導していく。 ◆自分たちで安全に下校できるよう、呼び掛けや見守りを継続していく。特に学年下校の際には、下校直前の声掛けを継続して行う。								
		教職員	学校は、交通安全やけが防止等の適切な指導・対応を行い、安全な環境づくりと自分を守る力の育成ができています。										100%	65%	35%	0%	0%	3.7	
		児童	あなたは、事故やけがのないよう危険を予測し、自分と周りの人の命と安全を守って生活できていますか。																96%

学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	健やかな体の育成	11	保護者		A											・清掃場所を交代した際に、担当教員が清掃の方法を丁寧に指導したり、高学年の児童がリーダーシップを発揮して下学年の児童に清掃の仕方を優しく教えたりしており、個々の児童の清掃への意識が高まってきている。清掃の手順などについて理解が進み、達成感が味わえるようになってきている。	◆清掃場所交代時には、引き続き丁寧に清掃の仕方を指導する。そのための清掃指導の時間を確保する。また、清掃後には、ごみの始末や清掃道具の片付けなどの見届けをしっかりと行わせる。 ◆清掃場所への移動に際して6年生の児童が、歩き方を呼び掛けるようになり、落ち着いて移動できるようになったことも、清掃の充実につながっている。全校が静かに移動することも継続して呼び掛けていく。
		教職員															
		児童	あなたは、清掃の時間に、時間いっぱい隅々まで、きれいにしようと頑張っていますか。	99%		78%	21%	1%	0%	3.8							
学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	健やかな体の育成	12	保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に生活できている。	B	75%	31%	44%	20%	5%	3.0	・保護者・児童共に、肯定的に捉えていない割合が多い。合言葉を基にした生活習慣が十分身に付いていないことがうかがえる。家庭への啓発が課題である。	◆保健委員会と連携し、合言葉チェック（早寝・早起き・朝ごはんの実施状況調査）の予告や結果報告を行うことで、合言葉を基に意識を向上させる。 ◆家庭でも定期的に合言葉を基にした生活チェックを実施してもらい、保護者への啓発を行う。 ◆保健だよりや学校保健委員会との連携を図り、食育の重要性を知らせる。				
		教職員	学校は、「早寝・早起き・朝ごはん」などの望ましい生活習慣の形成に努めている。	90%		48%	42%	10%	0%	3.4							
		児童	あなたは、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に生活していますか。	85%		45%	40%	12%	3%	3.3							
	健やかな体の育成	13	保護者	お子さんは、タブレットなどのインターネットに接続できる機器を適切に使うことができている。	A	87%	40%	47%	11%	2%	3.3	・教職員と児童は、適切な使い方について肯定的に捉えているが、保護者の13%が肯定的でない。教職員、児童と保護者で認識のずれがあると考えられる。	◆「わが家のスマホ・ゲーム機器等使用のルール」を家庭に配付し、ルール作りを推奨するとともに、学校だよりや学年だより等を利用して、家庭への啓発を継続して行う。 ◆道徳科や学級活動での情報モラルの授業を年間計画に位置付け、発達段階に応じた指導を実施していく。				
		教職員	学校は、インターネット等の適切な使い方を指導し、情報モラルや望ましい生活習慣の形成に努めている。	100%		60%	40%	0%	0%	3.6							
		児童	あなたは、タブレットなどのインターネットに接続できる機器を正しく使っていますか。	99%		77%	22%	1%	0%	3.8							
学校は「換気確保」や「手指衛生等の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	健やかな体の育成	14	保護者	学校は、感染症対策を適切に行うとともに、子供たちの健康の保持・増進に努めている。	A	96%	41%	55%	3%	1%	3.4	・保護者、児童、教職員共に良好な結果となっている。	◆引き続き、換気・手洗いへの啓発を行い、各種の感染症予防に努める。 ◆感染症（インフルエンザ・コロナ）発症時の対応策を明確にし、全教職員が共有し予防に努める。				
		教職員	学校は、感染症や熱中症対策を適切に行い、児童の健康の保持・増進に努めている。	90%		75%	15%	10%	0%	3.7							
		児童	あなたは、感染症を防ぐために、掃除のあとや給食の前など、しっかり手洗いを行うことができていますか。	94%		60%	34%	4%	2%	3.5							
学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	特別支援	15	保護者	学校は、特別支援教育の視点を取り入れ、一人一人の特性に配慮した指導や対応を行っている。	A	89%	38%	51%	11%	0%	3.3	・特別支援コーディネーターを中心に、各学級における、特に配慮を要する児童に対する理解を深めてきたが、保護者の評価には、ばらつきが見られる。	◆特に配慮を要する児童に対する共通理解を図り、全校体制で取り組んでいる。今後も個々の対応について、必要に応じて話し合う機会を設ける。 ◆よりよい教師の関わりについて研修の機会を増やしたり、保護者への特別支援教育に対する理解が進むように情報を発信したりしていく。				
		教職員	学校は、特別支援教育及びユニバーサルデザインの視点を取り入れて、一人一人の特性に配慮した指導や対応を行っている。	95%		55%	40%	5%	0%	3.5							
		児童															
学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	組織・運営	16	保護者	学校は、相談事等に学校全体として協力して素早く対応している。	A	92%	43%	49%	6%	2%	3.3	・保護者、教職員、児童共に肯定的な評価となっているものの、少数ではあるが肯定的でない捉えの方がおられることを真摯に受け止める必要がある。	◆来年度も相談事に全体的に対応できるような組織づくりを充実させる。特にいじめ等の困り事には、即日対応できるように連携を図る。				
		教職員	学校は、相談事等に管理職や主任を中心として、組織的かつ迅速に対応している。	100%		90%	10%	0%	0%	3.9							
		児童															
学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	研修	17	保護者	学校は、様々な今日的な課題（情報モラル・SDGsなど）に対応する教育活動を工夫して実施している。	A	93%	30%	63%	7%	0%	3.2	・保護者の評価は肯定的であるが、今日的な課題に対応する教育活動になっているかについては、活動の見直しや指導の工夫が必要である。 ・あいあいタイムの充実に向け、研究協議等で、議論し、教職員で課題を共有してきたことで、上半期より、意識が上がっている。	◆学年に応じて、今日的な課題が取り入れられた教育活動となっているか考慮しながら、来年度からの年間指導計画を作成する。 ◆各部会を中心に研究のまとめや話し合いを行い、来年度に向け、成果と課題を明らかにし実践を行っていく。				
		教職員	学校は、積極的に研修に取り組み、目指す授業像を共有し、着実に成果を上げている。	100%		79%	21%	0%	0%	3.8							
		児童															
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	保護者・地域との連携	18	保護者	学校は、保護者・地域の方々の協力や参画を得て、教育活動の充実や地域との相互理解に努めている。	A	98%	54%	44%	2%	0%	3.5	・新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、地域の方々の協力の下、様々な体験的活動を実施することができた。保護者、教職員共に肯定的な評価となっている。	◆今年度末に「地域とともに行う活動」の実施報告書と、来年度の実施計画を作成し、地域の方々の理解を協力を得ながら、地域で学ぶ活動を継続し充実化を図る。				
		教職員	学校は、保護者及び地域の人材や環境を生かし、教育活動の充実と郷土愛の醸成に努めている。	100%		74%	26%	0%	0%	3.7							
		児童															
学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	保護者・地域との連携	19	保護者	学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、教育活動の様子をよく伝えている。	A	97%	57%	40%	3%	0%	3.5						
		教職員	学校は各種便りやホームページ等により、保護者や地域への情報発信に努めている。	100%		80%	20%	0%	0%	3.8							
		児童															
学校は、言語活動の充実及び展掲の工夫等の環境整備に努めている。	教育環境整備	20	保護者	学校は、来訪者にも分かりやすく潤いのある展掲の充実や工夫に努めている。	A	96%	49%	47%	4%	0%	3.4	○教職員と児童の意識にずれがある。 ○児童には自己を振り返る際の基準が必要であると思われる。	◆学年フロアを中心に児童作品を掲示しているが、保護者や来訪者の目に留まる場所（正面玄関など）への展掲について改善を行う。 ◆教室の環境美化については、児童と学級担任が話し合っ、よりよい環境になるようにする。				
		教職員	学校は、展掲の充実等、環境整備に努めている。	100%		80%	20%	0%	0%	3.8							
		児童	あなたは、教室等の美化や整理整頓に気を付けていますか。	89%		54%	35%	9%	2%	3.4							
学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	幼小中連携	21	保護者	学校は、幼稚園・保育園、中学校と連携して、入学や進学に向けて、適切な説明、対応を行っている。	A	93%	37%	56%	7%	0%	3.3	○上半期よりは、小中との交流が行われたが、幼保との交流は、感染症等の影響で、ここ数年進んでいない。入学に向けて、交流や連携の仕方を工夫する必要がある。 ○授業参観や交流を通して指導の連続性や課題の共有に努めているが、保護者には、あまり伝わっておらず肯定率がやや低くなっている。	◆入学に向けて、幼保との連絡協議会での情報交換の仕方を工夫したり、生活科等での交流会を再開したりすることで、小1プロブレムの解決につなげていく。また、中学校との連絡協議会においても同様に、児童や家庭についての引継ぎをしっかりと行う。 ◆ホームページ等で様々な活動としては発信しているが、学校だより等で、年間1回は、幼保小中との連携に焦点を当てて発信する。 ◆スタートアップカリキュラムについての理解が進むように、学年だよりやホームページ等を利用して周知を図る。				
		教職員	学校は、各園、小中学校との交流や連携を通して、小1プロブレムや中1ギャップの解決を図っている。	100%		50%	50%	0%	0%	3.5							
		児童	あなたは、オープンスクールなどを通して、中学校進学への意欲や希望が高まりましたか。（6年・11月のみ）	94%		59%	35%	4%	2%	3.5							
学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	幼小中連携	22	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等のつながりのある学習指導を行っていますか。	B	87%	27%	60%	13%	0%	3.1						
		教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、指導の連続性や課題の共有に努めている。	90%		26%	64%	10%	0%	3.2							
		児童															
学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	幼小中連携	23	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等と連携して、子供の理解に努めていますか。	A	86%	28%	58%	13%	1%	3.1						
		教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、教職員同士の相互理解を図っている。	95%		31%	64%	5%	0%	3.3							
		児童															